

絆

国立稲門会会報

2016年10月30日発行

第2号

幹事長挨拶

国立稲門会幹事長 小野沢純一

本年5月29日の国立稲門会総会で幹事長を拝命いたしました小野沢純一でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

私は杉並区生まれで、60年前、小学校3年生の時に国立に引越して

きました。国立第4小学校、国立第1中学校、都立南多摩高等学校、早稲田大学理工学部電気工学科と進み、その後電気メーカーで無線機的设计等を行ってきまして、4年前からサングレー毎日の生活を送っております。国立在住は47年となりました。

私の好きなことは、2016年ノベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典東京工業大学名誉教授との唯一の共通点であるお酒を飲むことと、ゴルフを楽しむことです。

さて、これまで国立稲門会では稲美展絵画、写真等)、ゴルフ会、稲石会(囲碁)、美術館巡りの4つの同好会が活動しておりますが、近隣稲門会と比較して、不活発であると考えられてきました。参考までに武蔵野稲門会の同好会をご紹介しますと思います。

①テニス部会、②三水会月例懇親会、③若手の会、④囲碁会、⑤ゴルフ会、⑥旅行部会・お花見の会、⑦カラオケ部会、⑧マージャン部会、⑨もつと早稲田を応援する会、⑩クラシック音楽同好会、⑪江戸散策の会、⑫俳句・川柳の会、⑬温泉と景観を楽しむ会、⑭みんなで歌おう会、⑮写真同好会。何と15の同好会が活発に活動しています。国立稲門会も活性化を図り、同好会を増やし、楽しく有意義な活動を展開したいと思っております。



会長挨拶

国立稲門会々長

扇田 正俊

本年、第40回総会にて石井昌浩会長の後任として6代目の会長に就任致しました扇田でございます。私は昭和43年理工学部を卒業いたしました。

これまで校友会代議員を30年位前からやっておりますが仕事が多忙なかでほとんど大学にも貢献しておりませんでした。そんな事もあり今回、会長職をお引き受けることに致しました。諸先輩がいらっしゃる中で大変僣越ですが今後ともよろしくお願ひ致します。

今年が40周年の節目であり、昨年からは国立稲門会の伝統であった会則無し、会費無し、名簿無しの三無主義を返上して2年目に入り、これからのように会の活性化を進めるかが課題であり責任を感じているところです。

こうした中、会報「絆」も今般第2号が発刊されました。先日、念願であったホームページも立ち上がり、これからはこの二つが両輪となって国立稲門会の情報伝達、特に会員同士の情報交換、早稲田大学校友会の行事や情報を掲載し会員の活動にお役にたてばと思っております。

いずれにしろ新体制の中で模索しながらも皆様と一緒に前向きにやっておりますので改めてよろしくお願ひ致します。

おります。会員の皆さまのご支援と協力を願ひ申し上げます。

【ゴルフ会】



国立稲門会ゴルフ会は、現在登録会員が12名であり毎年春秋2回の定例

コンペと夏の国立早慶戦コンペを開催してきました。会員の高齢化が進み参加者の減少が続いております。参加者の推移は、平成20年16名、平成21年14名、平成22年11名、平成23年9名、平成24年9名、平成25年10名・8名、平成26年8名・6名、平成27年8名・6名であります。本年は幹事の怠慢もあり、コンペが設定されております。近隣稲門会との合同コンペを考慮中であり、ます。

【一木会(月例懇親会)】

会員相互の親睦を深めるために本年6月より月例懇親会飲み会を始めました。参加者は、6月9名、7月9名、8月14名、9月12名、10月7名で、武蔵野稲門会と立川稲門会の論客にも参加いただき、ワイワイガヤガヤ楽しんでおります。

一木会は毎月第1木曜日と日を決め、午後6時より山内農場国立南口店で開催しております。楽しい会です。ぜひご参加を！

【カラオケの会】

本年9月に記念すべき第1回のカラオケの会をはじめましたが、参加者が2名と寂しい限りでありました。適宜今後も続けていきたいと思っておりますので、カラオケ好きの方々の積極的な参加をお願いいたします。国立稲門会ではいくつかの同好会活動を行っていますので、それらの活動状況をご紹介いたします。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

ホームページ開設



れています。

皆様の積極的なアクセスをお願いいたします。

以下は石井めぐみさんからのホームページの紹介です。

ホームページ担当、石井めぐみ

国立稲門会のホームページができました。

会の概要や活動の紹介、日々のニュースなどを掲載しています。

会員拡大のためのコンテンツや、会報のバックナンバーなども閲覧できるようにしたいと考えています。

URLは「国立稲門会・net」となっていますので、パソコンやスマホのURL入力欄に打ち込んでご覧ください。

今後の会員専用コンテンツの閲覧や、新たな入会者のために会員登録もできるようにいたしました。

「会員登録」のボタンを押して英数字の任意のユーザー名とパスワードを入力して登録をしてください。

まだ開発途上なので、みなさまのご意見などを伺いながら更新して行く予定です。

国立稲門会ホームページが会員皆様の生活の潤いの一助となりますことを願っています。

稲美展

和泉喜丸

下田行男

今年の稲美展は、7月21日から26日の1週間、国立コートギャラリーで開催されました。今年の出展者は



参加されたことと、絵画部門では、日本画家で一連の源氏物語で海外も知られた、今吉淳恵さんが参加されたことです。

来年の稲美展は、7月21日(木)から26日(火)の開催が決定しております。国立稲門会の皆様新たなご参加、および近隣稲門会からの出展を期待しています。

美術館訪問

鈴木幸雄

「小金井市立はげの森美術館訪問と国分寺崖線・坂とはげの道めぐりの散策」

9月10

日(土)午後

1時、JR

中央線武

蔵小金井

駅改札前

に集合し

ました。参

加者は扇

田、和泉、山内、鈴木の4名です。

この日のコースは坂の上り下りが多いのですが、予想以上に気温が高いため、熱中症に注意しながらスタートしました。最初は「質屋坂」の下りでした。この坂道は埼玉県志木から府中へ通じる志木街道の旧道で、坂の東側に質屋があったことからこう呼ばれるようになったそうです。

小金井街道の下をくぐり、今度は「妙歎坂」の石段を上り、はげの道を東に進み「車屋の坂」を上ったあと「白伝坊の坂」を下りました。結構、暑さがきつかったです。再びはげの道を進むと、キウイフルーツがたわわに実っている果樹園があり、さらに進むと、目的の小金井市立はげの森美術館に1時45分頃に到着しました。

2時からのギャラリートークまでしばらく休憩したあと、いよいよ学芸員の説明を聞きながら作品を鑑賞しました。今回は、開館10周年記念展ということで、笠間自動美術館所蔵のパレットコレクションの展示もありました。色々な作家のパレットが展示されている中で、私は東郷青児と宮本三郎のパレットが印象に残り、その絵葉書を購入しました。自動美術館にパレットを寄贈する際に、作家によってはパレットに絵を描い



て寄贈されたようです。パレットにもひとつの作品としての価値があると感じました。

この美術館は、中村研一のアトリエのあった場所に建てられているので、敷地の裏庭には湧水が出ていて池もあり、なかなか風情のあるところでした。

美術館を後にして、再びはけの道を進むと「ムジナ坂」と呼ばれている急な坂がありましたが、見ただけで上る気力がなくなりました。

今度は野川に沿って西方向に歩きました。小金井神社を通り過ぎ、小金井小次郎の墓を示す石塔を右手に見ながら進み、小金井街道の下をくぐり、幡随院という立派な敷地を眺めつつさらに進みました。そして、本日最後の坂「念仏坂」を上りました。竹林を思わせるような雰囲気の坂で、ここで、本日最初で最後の集合写真を撮り一枚撮り、ゴールの武蔵小金井駅に向かいました。

予定通りの4時に駅に到着し、国立に戻り解散しました。今回、参加者が4名と少なかったのですが、これからも美術館巡りと散策のイベントを続けていきますので、多くの皆様の参加をお待ちしております(参加者1名でも実施します)。

(本年11月に恒例の御岳美術館方面を開催する予定です)

稲石会

稲石会は囲碁の同好会です。毎月定期的に囲碁の会を開催しておりますので、ご興味のある方はご参加ください。

市民祭

和泉 喜丸

荒畑 豊



照ってください。

今年は11月6日に開催されます。テントは例年と同じく一橋大学の正門のやや南寄りに開設する予定です。会員の皆様の沢山の訪問をお待ちしています。

会員紹介

今号から会報に「会員紹介」欄を新設いたしました。毎号、会報担当から執筆のお願いが行きますが、皆様の積極的なご協力をお願いいたし

ます。記念すべき第一回は中村春男さんです。

国立稲門会の皆様

1975年教育学部卒、中村春男

2015年の総会から参加しています「新入会員」の中村春男です。1975年教育学部社会科社会心理学専修卒で、国立市には、2007年から住んでいます。出身は、東京都府中市ですが、卒業後、26年間、米国ニューヨーク市で暮らしました。2007年秋に、帰国。英語は、会話はペラペラ。難しい専門用語は、全くダメ。米国流個人主義を、身をもって体験しました。

もう直ぐ64歳。職業、何時もは専業主夫。食料品の買出し、夕飯を作ることが、好きです。

昔、テレビ報道番組制作者。全米、世界中を飛び回っていました。帰国後、フリーランスの映像制作・演出業。ほとんど暇です。昨年から、JICA(国際協力機構)のODAで、コンボ共和国公共放送局RTK(Radio Television of Kosovo)の番組制作指導専門家として、2年契約。一カ月間の派遣単位で年4回現地に赴いています。

稲門時代のサークル活動は、放送研究会。報道部に所属し、NHKのスタジオ討論番組などで活躍する三

宅民夫君は同期です。今までの人生を振り返り、自分の原点は、この放送研究会にありました。

卒業した1970年代中頃は、第一次オイルショックを経て戦後続いた高度成長期が終わり、経済成長率が5%前後の安定成長期に入った頃です。卒業した同輩は、放送局や、一流企業へ就職していきました。当時の大卒初任給が、8万9千円。貧乏学生だった小生の財布は空っぽ。

放送局に就職したかったものの、時代の波に浮かれて就職活動もせずに卒業。プロダクションで、テレビや映画の制作進行、コマーシャル制作現場を経て、そして、好きだった報道に携わる仕事や、やがて運命の様にやって来ました。

1981年の春、プロダクションとの契約でテレビ朝日ニューヨーク支局に着任。憧れの街、ニューヨーク。年齢28。ジャズ、ミュージカル、セントラルパークなど、楽しい時間と裏腹の身を削った厳しい報道最前線が待っていました。鍛えられました。

アメリカの友人も沢山できて、多くを学びました。中でも、個人主義。米国大統領選挙の若者の熱気。皆が個人で参加していました。また、ある日、友人の結婚式に招かれて、驚

きました。そこには、見慣れた日本的な式次第は全くなくて、参加した友人たちが思い思いに立ち上がり、お祝いの言葉を手向けます。自分の言葉で発言する。言葉が思いを伝えていました。



日本
人は、発言が苦手です。ね。「空気を」読むむ…です。か。最

近赴任したコソボでは、民族問題を肌身で学んでいます。アルバニア人とセルビア人。17年前まで殺し合い、略奪し合っていた民族が欧州の調停で一つの国家を作っています。欧州や日本の協力で公共放送局が作られ、今、番組制作を通じた民族融和、平和共存への取り組みが進んでいます。コソボ人って誰だ？難しい問題です。バルカン半島の戦火に加担しなかった日本は、好意的に迎えられています。日本人には、馴染みのない民族問題。アイヌや在日など民族問題を抱えているにも関わらず、「一つの日本人」を語りがちです。これからの日本を考える時、東南アジアや南米、中東からの移民、難民をどう包摂し

ていくのか？違いを言葉で確認しながら、良きコミュニケーションを取っていく。お互いを認め合う。外から日本を見てきた所見です。

総会報告

副会長 鈴木 幸雄

第40回国立稲門会総会は平成28年5月29日(日)午後4時より中華料理店「雅月」において会員21名の参加のもとで開催されました。

当日はご来賓として早稲田大学校友会金子地域担当部長をはじめ、国分寺稲門会、立川稲門会、国立三田会、明治大学校友会国立地域支部、中央大学学員会国立支部の皆様にもご臨席をいただきました。

三浦幹事長の司会のもと、はじめに石井会長よりご挨拶をいただいた後、分科会報告として稲美会を和泉副幹事長、ゴルフ会を小野沢幹事、稲石会を立花幹事より活動報告がありました。秋田会計による会計報告では27年度より会費制を導入した結果、次期繰越金が増加したとの報告がありました。役員改選では、鈴木副会長から新役員(案)の説明のあと採決した結果、原案通りに承認されました。新役員は以下の通りです。
扇田会長(新任)、三浦副会長(新任)、鈴木副会長、秋田会計、小野沢幹事

長新任、宮地副幹事長、立花幹事、浜野幹事、下田幹事、和泉幹事・代議員、伊藤幹事・代議員

(なお、懇親会の席上で鈴木副会長より緊急動議が提案され、新たに荒畑 豊、石井めぐみ、羽島尚志の3名が幹事に就任することが承認されました)

会長に就任された扇田新会長のご挨拶のあと、40周年記念特別講演として石井前会長より「近代日本の教育事情」との演題で講演をしていただきました。

講演の後、いよいよ懇親会となりました。校友会の金子地域担当部長のご祝辞をいただき、小野沢新幹事長のご発声により乾杯となりました。お料理を頂きながらお酒を酌み交わす中、会員同士による会話も盛り上がり和やかな雰囲気の中で会は進んでいきました。

最後は、校歌「都の西北」の合唱とエールの交換を行い、池田相談役の挨拶をもって散会となりました。

忘年会のお知らせ

恒例の国立稲門会忘年会は、平成28年12月11日(日)午後5時より、従来の「雅月」から会場を変更して、中華料理店「長江菜館」(国立市中1の8の9、田中ビル2F) 8042

5770559」において開催いたします。

会費は6000円となります。同封しました返信用はがきで、出欠に拘わらず12月2日(金)までにご回答をお願いいたします。

今回もプレゼントの抽選会など楽しい会にしたいと思っていますので、多くの会員の方のご参加をお待ちしております。

編集後記

幹事長 三浦 弘幸

会報「絆」はやつと第2号の発行となりました。またよちよち歩きの間段階ですが、記事の内容をいろいろ工夫して、皆様への情報誌としてご利用いただけることを期待しております。

今号で紹介いたしました、国立稲門会のホームページも立ち上げました。ホームページと会報は皆様への情報提供のツールですので、お互い連携を取りながら会員の皆様に必要な情報を提供していく所存です。

早稲田大学国立稲門会

会報「絆」第2号

発行責任者、扇田正俊

編集責任者、三浦弘幸